

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等**

**1. 実践校について**

実践校名	ひょうごけんりつ ひょうご こうとうがっこう 兵庫県立兵庫高等学校		
学科名	生徒数	学級数	
普通科	840	21	
創造科学科	120	3	

**2. 実践研究の対象**

主たる対象（240名）

- ・創造科学科1・2・3年生（それぞれ1クラス40名ずつ 計120名）
- ・普通科1～3年生（学校設定科目「グローバルリサーチ」選択者計120名）

**3. 実践研究の実施経過**

(1) 創造基礎A・B, RRE

①「創造基礎」の内, 地域課題研究分野（1単位）

- 1 学期 課題設定と地域との協働体制構築のためのフィールドワーク及びボランティア活動
- 2 学期 地域課題研究をさらに深めるための県内外でのフィールドワーク及び課題解決のための実践活動, 成果発表
- 3 学期 実践活動の企画・運営, 成果発表

②「創造基礎」の内, 座学中心部分（1単位）

- 1 学期 憲法と民主政治 個人の尊重と法の支配 資本主義 働き方改革
- 2 学期 メディアリテラシー, 金融・財政, 社会保障, 政治参加（模擬選挙）
- 3 学期 国際社会と日本
- ・年度末に生徒の意識変容について調査(対象1クラス, 対照群2クラス)及び分析

③「RRE」（1単位）

- 1 学期 「世界一大きな授業」「日本の初等教育」
- 2 学期 「地球環境問題について」「少子高齢化問題について」「世界の人口問題」
- 3 学期 「神戸市の魅力と課題」
- ・学期末に兵庫教育大学と大阪大学の外国人教育研修生および留学生との交流会を実施

(2) 校外における研究発表

- ① 関西学院大学「総合政策学部リサーチフェア」
- ② 福井大学「実践研究福井ラウンドテーブル」
- ③ 立教大学「第7回シティズンシップ教育ミーティング」(新型肺炎の影響で、中止)

#### 4. 実践研究の実施体制

事業実施のため次の委員会を設置した。

(1) 校外組織

社会参画推進委員会

構成……学識経験者，NPO法人代表，地域住民団体代表，行政関係職員（兵庫県，神戸市），県教育委員会職員，保護者，学校関係者

開催回数……年1回

協議内容……プログラム開発及び実施内容・発信方法に関する助言

【令和元年度委員】

水山 光春（教育評価，社会科教育：青山学院大学教育人間科学部教授）

廣岡 徹（教育経営，社会科教育：兵庫県生きがい創造協会理事・生涯学習アドバイザー）

藤原 生也（県立教育研修所 教務部長）

東末 真紀（神戸大学学生ボランティア支援室）

田中 幸夫（神戸市長田区まちづくり推進部まちづくり課長）

岩切 玄太郎（兵庫県企画県民部ビジョン課班長）

上月 さやこ（兵庫県教育委員会高校教育課担当指導主事）

(2) 校内組織

① 社会参画に係る調査研究推進委員会

委員長 兵庫高校校長

副委員長 兵庫高校教頭

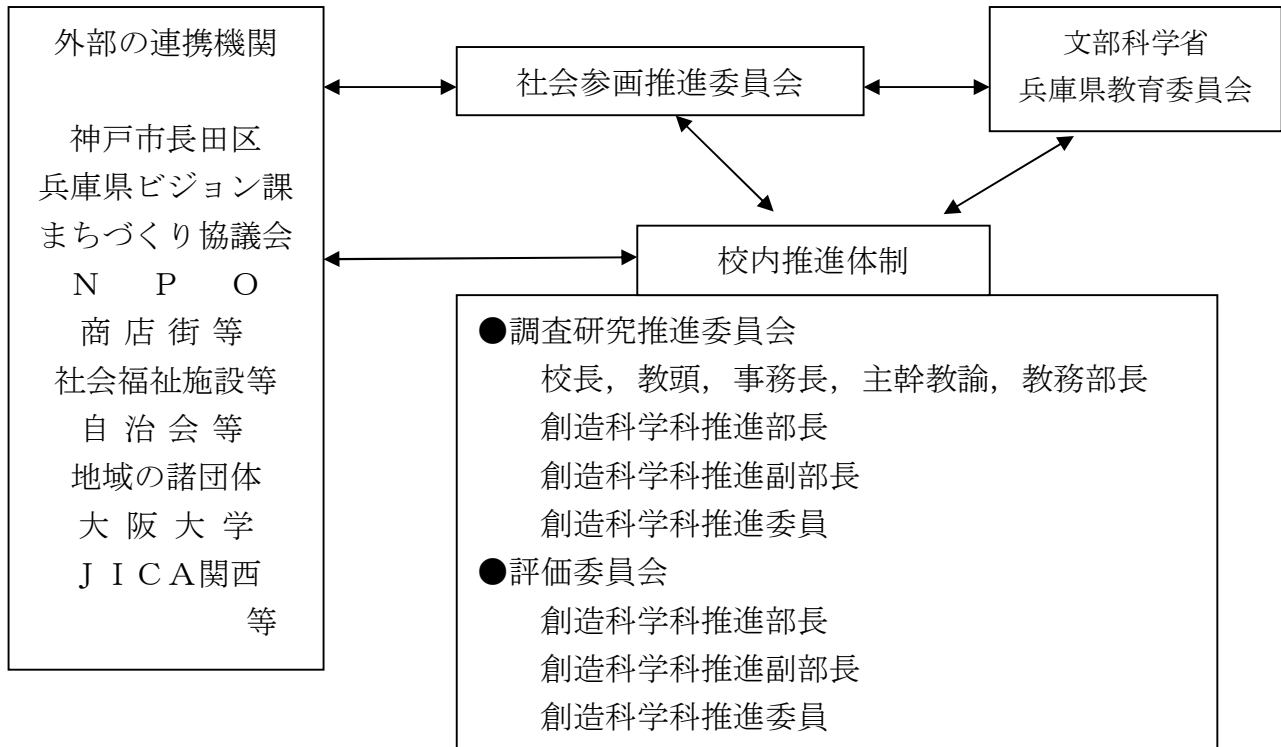
委員 事務長，主幹教諭，教務部長，創造科学科推進部長，同副部長，同委員

② 社会参画に係る評価委員会

委員長 兵庫高校教頭

委員 創造科学科推進部長，同副部長，同委員

## 兵庫高校の社会参画に係る実践力育成のための調査研究推進組織の概要



### 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

県教育委員会では、本事業が円滑に実施できるように、県立教育研修所教務部長が社会参画推進委員会のメンバーとして学校に助言を行うほか、高校教育課に担当指導主事を置き、日常的に学校の相談に応じられる体制をとった。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実施校名：兵庫県立兵庫高等学校（創造科学科および普通科）

### 概要

地域の諸団体と連携しながら地域の現状と課題を研究し、改善のための提案や解決に向けた実践活動を通して、生徒が地域における主権者として自立するための基礎的な能力や態度を育成する学習プログラムを開発する。また、国際協力に関する課題研究等を通して、地球市民としての基礎的な能力や態度、実践力を育成する学習プログラムを開発する。

### 学習プログラムの目標

- 社会に貢献する志、人間関係を構築する力、企画・実践力などの「社会創造力」を育む。
- 実社会でおきる課題を対象に研究を通して、課題の分析や考察をし、それを論理的に説明できる「科学的思考力」を育む。
- グローバル社会で活躍する人材や大学教授などの専門家からの講義やワークショップを通して、国際的視野を持ち、自他の立場を踏まえて考察できる「複眼的思考力」を育む。
- 今後の自分の生き方や進路について真剣に考え、自己のキャリアを設計しようとする「自律的活動力」を育む。
- 以上、4つの力の育成を軸に、主権者として自立するための基礎的な能力・実践力の育成し、高校生の主権者意識を涵養するとともに、社会の発展に寄与する力の育成を図る。

### 学習プログラムの主な内容

#### 1. 創造科学科（学校設定科目「創造基礎」受講者）

##### （1）地域のまちづくりに関する課題研究

###### ① 外部講師による講義

神戸市長田区まちづくり課職員から、歴史文化、子育て、高齢化、多文化共生、中心市街地活性化、震災復興など地域の課題についての講義を受けた。

###### ② フィールドワーク

グループごとに扱う課題（研究テーマ）を設定し、フィールドワークを行った。

###### ③ グループディスカッション

フィールドワークの成果に加え文献やインターネット等による調査をもとに、グループごとに課題解決の提案内容について話し合った。

###### ④ 発表会

グループごとに提言をまとめ、6月と9月に発表会を行った。その際、神戸市長田区まちづくり課職員やNPO法人などフィールドワークにかかわった関係者から指導

助言を得た。

⑤ 課題解決に向けた活動

自ら考えた課題解決に向けた活動を課外活動として行った（④の発表内容を踏まえた活動を企画し、地域のイベント等で実践した）。

(2) 外部との連携による課題解決型学習

① 「新聞ノート」による反転学習

外部講師の授業テーマに関する新聞記事を切り取り、感想を書き、回し読み形式で議論させた。

② 外部講師による授業

講義型の授業だけでなく、ワークショップや体験型の授業も実施した。

③ ふりかえりシート

授業ごとにねらいに照らし合わせた項目について記述させた。成果物と合わせて評価の対象とした。

2. 普通科（学校設定科目「グローバルリサーチ」受講者）

(1) 「足元の国際化」をテーマにした課題解決型学習

① 外部講師による講義

ASEAN 専門家の河原光伯氏，アイセック大阪大学委員会の大谷望恵氏，三ツ星ベルト株式会社の倉本信二氏，神戸市外国語大学教授の野村和宏氏，多文化共生センターひょうご代表の北村広美氏，神戸大学准教授の藤井信忠氏および講師のエルカン・キビリチム氏から専門分野について講義を受けた。

② テーマ設定

外部講師による講義や後述の「新聞ワーク」から各自でテーマを設定し、共通のテーマを設定した生徒とグループを形成した。

③ フィールドワーク

グループごとに扱う課題（研究テーマ）を設定し、フィールドワークを行った。

④ グループディスカッション

フィールドワークの成果に加え文献やインターネット等による調査をもとに、グループごとに課題解決の提案内容について話し合った。

⑤ 発表会

グループごとに提言をまとめ、6月と11月に発表会を行った。その際、甲南大学准教授の甲元一也氏や、大阪大学教授の佐々木勝氏と特任助教の金泓権氏から指導助言を得た。

(2) 外部との連携による課題解決型学習

① 「新聞ワーク」による反転学習

各自で関心があるテーマについて新聞記事を切り取り、感想を書き、グループで議論させた。

② 外部講師による授業

講義型の授業だけでなく，ワークショップや体験型の授業も実施した。

③ ふりかえりシート

授業ごとにねらいに照らし合わせた項目について記述させた。成果物と合わせて評価の対象とした。

### **学習プログラムの成果の概要**

- 4つの力及び，高校生の主権者意識の涵養
- 「社会参画に関するアンケート」の実施
- グループ活動の生徒による班内相互評価の実施（新型肺炎にともなう休校措置で未達）
- OECD Future of Education and Skills 2030 Co-Agency に関する調査の実施
- 大学等研究機関における実践発表
- 長田区との連携協定にともなう「まち育てサポーター」の活用
- 普通科「グローバルリサーチ」における課題解決型学習の推進